

お申し込みは辰巳公民館まで 9月5日～10月25日 先着50組

第14回

親子ふれあいフェスタ

日時 令和4年10月27日(木)

10:00～11:30 (開場9:40)

- 場所 辰巳公民館(体育室)
- 対象 乳幼児とその保護者
- 内容 サンサン体操・リトミック
人形劇「大きなかぶ」
みんなで遊ぼう!

入場無料
上履き持参

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止する場合があります。

新たに家族を迎えるパパ・ママへ(16週～33週までの妊婦やその家族)

きらきらマタニティ
要予約

10月24日(月) 10時～12時
親の役割などを学びましょう

図書室より

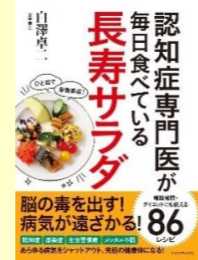
秋の夜長、読書の季節です

9月に入り敬老の日も間近です。辰巳台の65歳以上の人口をみると、現在は平成元年の10倍にもなっているとのこと。このように高齢化が進む中、図書室でもこれに対応し、時代小説や大きな活字本を用意しています。

例えば

- 「認知症専門医が毎日食べている長寿サラダ」
- 「60歳からのほどよい暮らし」
- 「75歳以上の免許更新が変わる!!!」
- 「80歳の壁」

など、シニアに寄り添った生活・健康・食などをテーマにした本も多数そろえています。ぜひ、図書室に足をお運びください。



認知症専門医が毎日食べている長寿サラダ
白澤卓二 著
ダイヤモンド社



ピンピン、ひらり。
鎌田式しなやか老活術
鎌田 實 著
小学館

memory

わが町辰巳メモリー



わが青春の辰巳台

斉藤和幸 (辰巳台在住61年)

辰巳の商業の発祥は、辰巳台西1丁目10番地に1961年9月に開設された「辰巳マーケット」でした。これは1950年代に臨海工業地帯建設により農地、漁場を失った人たちの転業を促す場所として千葉県が主導して作られました。

私は1942年に五井波瀾に生まれ当時10代後半。家業は半農半漁でしたが農地、漁場を失い、葛飾で八百屋をやっていた叔父を頼って修行し、19歳で「斉藤青果店」を起業して辰巳マーケットに参加しました。辰巳マーケットに参加したのは23軒。当時の住民は230名ほどでしたが、目の前で計画人口25,000人の東洋一の社宅団地が建設中

でしたから夢と希望に燃えていました。

東京オリンピック開催の熱が冷めやらぬ1964年12月に13軒の有志で、その隣に「辰巳ショッピングセンター(辰巳SC)」を建設し、そこに移転しました。青果店をやっていた私は1971年の辰巳SC増設時に、食品ロス削減の先駆けとして「フルーツパーラーさいとう」を新たに併設しました。また辰巳SCに隣接する形で10軒の商店街「辰巳中央商店街」が形成され、後に私はそこに「マルワ」を建てることになります。また、若宮や辰巳台東などにも青果店を出店しました。

1972年には辰巳都市公社が

「辰巳マーケット」跡地に5階建ての「辰巳会館」を建設。1階は市原市役所出張所や千葉興業銀行、レストラン「ギンレス」、衣料品店「シノヤ」、2階はボーリング場(!)と喫茶店「ドール」、3階はホールと大小会議室、4・5階は、住居施設が入居するといったものでした。

とにかくこの当時、辰巳は活気にあふれ、現在の辰巳台市民広場の北側に広がっていた空き地で三日三晩の盆踊り大会が開催され、「3日じゃ少ない!」といった声も多く聞かれました。

辰巳での商売人生は私の青春記そのものです。



写真右上から左回り。①盆踊りの舞台挨拶風景、②ミス千葉港を歓迎して辰巳団地を巡回するイベントカー、③斉藤青果の広告文、④辰巳ショッピングセンター全景、左上に見えているのは辰巳会館。(ともに1975年頃。③④は「市原商工名鑑1975市原商工会議所」より)



寄稿・取材募集

『たつみヒストリー』
『わが町辰巳メモリー』
の掲載原稿、取材など募集しています。
お問合せは、辰巳公民館(担当岡見)まで
(74-8521)